

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画 ステップ2 振り返り報告書

～ 応援メッセージ ～

<令和3年度～令和4年度分>



第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会

令和5年3月

< 目 次 >

1	はじめに	2
2	計画の振り返りの考え方	2
3	振り返りの対象と手順	2
4	ステップ2の総括	3
5	参考資料（ステップ2 振り返りシート）	4
6	委員名簿	11

1 はじめに

この報告書は、第4次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下、「第4次活動計画」という。）の94頁に記載されている「計画の推進と振り返り」を行うために、第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会（以下、「推進委員会」という。）を設置し、計画の取り組み状況を定期的に確認し、振り返りを行った内容をご報告するものです。

今回の報告書は、中期にあたる令和3年度から令和4年度までの2年間の取り組み状況の振り返りとしています。

2 計画の振り返りの考え方

- 本推進委員会の目的は、「武蔵野市の地域福祉活動を推進すること」にあります。したがって、単に目標の達成ではなく、地域の福祉活動及び地域の活性化が大切であると考えます。
- そこで、振り返りもこの目標を達成する一つのツールと考え、評価手法や評価技術よりも地域の活性化につながることに重きを置いています。
- また、この振り返りを継続し積み重ねていくことによって、事業の対象地域の状況や事業進展の時系列変化が「見える化」できると判断しています。その変化の状況や背景をさらに分析していくことで、今後のステップアップを考える材料の一つとしていくことも重要な「ねらい」となります。
- 地域の活性化は、地域活動当事者や関係者の活力や自信が重要であり、この振り返りが皆様にとっての活力・自信につながる応援メッセージとなることを目指しています。

3 振り返りの対象と手順

- この振り返りは、第4次活動計画第4章「全地域で6年間に取り組むこと」を対象としています。この第4章のうちの「基本目標」については、2年間で1ステップとして進捗状況を確認し振り返りを行っていきます。また、第4章のうちの「重点的取り組み」については、本推進委員会において取り組み状況や内容を事務局と共有しつつ意見交換を行いますが、総合的な進捗状況の確認と振り返りは、本計画期間である6年間で踏まえながら、次期計画の改定時期を目途に行っていきます。
- また、第3章「身近な地域で6年間に取り組むこと（地域社協別地域福祉活動計画）」については、第4次活動計画の94頁に「住民のみなさんが各地域の実情に応じて自主的に策定したものであることから、推進委員会による振り返りの対象とはせず、各地域において定期的に振り返りや見直しが行われることを想定しています。」と記載されていることから、各地域で振り返りや見直しを行っていただき、推進委員会による振り返りは行わないこととしました。

4 ステップ2の総括

- 地域福祉活動におけるコロナ禍の影響は続いています、一方で、オンライン会議等の普及が進み、「新たなコミュニケーションツール」の一つとなりつつあります。
- 11の地域社協で Twitter を開設するなど、Web 媒体による情報提供が進みました。
- Web ツールが使えないことで、つながりが断たれてしまわないよう、ボランティア団体や市民向けの Zoom 研修などの取り組みも行われました。

推進委員会からの応援メッセージ

電子媒体による情報発信の充実

- ◎ 市民社協や地域社協による SNS の情報発信については、更新頻度の向上が見られ、常に最新の情報が掲載されるように努力をされていることが伺えます。
- ◎ リニューアルに伴う市民社協ホームページのアクセス数、各団体における SNS の投稿数やフォロワー数等、データを活用することにより、「効果的な情報の伝え方」を分析することも必要かもしれません。

世代に合わせた広報の活用

- ◎ 世代によって、主として活用する情報媒体が異なります。地域住民の関心を広く高めるためには、様々な媒体を通じて、身近な地域福祉活動の情報等を伝えることが大切です。
- ◎ 各所の地域社協で実施されたように、SNS に関する研修等を通じて、多くの市民や団体が様々な媒体による広報活動を行えるよう環境を整えることも効果的です。

新たなコミュニケーションのあり方の検討

- ◎ コロナ禍の影響により、講座やイベントのあり方が問われています。今後も状況を見据え、対面とオンラインの長所・短所を見極めながら、両者の併用等による新たなコミュニケーションの取り方について、検討を継続する必要があります。
- ◎ ボランティアセンターが実施した「Zoom ボランティアが教える Zoom 講座」のように、オンラインに慣れていない方にも配慮のうえ、関心を持ち、気軽に関わられる機会を増やしましょう。

総合的な支援体制に向けた仕組みづくり

- ◎ 8050 問題やヤングケアラーなど、複雑化した地域課題の解決には、市民が周囲の異変に気づき、支援につながられるような啓発や、地域社協や民生児童委員、関係機関等を含めた総合的な支援体制の構築に向けた取り組みが大切です。

続けることの重要性

- ◎ 新しいアプローチをこれまで以上に追及することも必要ですが、「今できることを愚直に繰り返す」活動は、私たちの原点であり、今後も求められるものであると思います。短期の成果に目を奪われるのではなく、やるべきことを続ける私たちの原点にも自信と誇りを持ちましょう。

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画 ステップ2 振り返りシート

基本理念 「みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして」

基本目標1 地域をささえる人づくり

【参考資料】

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	ステップ2	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価(4・3・2・1)	評価理由、課題事項	推進委員会からの応援メッセージ(目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等)
(1) 地域の福祉情報・ボランティア情報を分かりやすく発信する	① チラシ・広報紙などの内容を改善しましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	誰が見ても「わかりやすい表現」で記載します	手に取って読んでもらえるような見出しやデザイン、内容の充実について検討し実施します	・市民社協広報紙「ふれあい」は、令和3年4月号から新広報委員による発行体制となり、企画や表現の内容の検討だけでなく、広報委員が取材・記事を担当するコーナーも新設し、市民目線での紙面づくりが進んでいる。 ・地域社協の広報紙は、インターネット印刷によりカラー化し、写真を多く掲載するデザインに変更した地域が増えた。 ・市民社協で実施している地域社協運営委員研修は、令和4年度は広報をテーマに日本NPOセンターが広告代理店とともに作成した資料に基づく研修を行う予定。	4	【評価理由】 ・市民社協では、紙面構成や表現なども含めて見直しを行い、実施している。 ・地域社協では工夫して掲載することを意識するようになった団体が増えたため。	○ ふれあいが隔月発行となりましたが、以前と比べ、内容が良くなり読みやすくなったと感じています。身近な地域の様々な方々の活躍を伝える記事も多くなり、読んでいて楽しくなります。年齢層によってふれあいを情報源にしている人も多いため、今後も力を入れて欲しいと思います。 ○ ふれあいについて客観性を持つ観点から、広報委員以外のボランティアセンター運営委員など他の地域の方にもふれあいの紙面構成や内容などの意見を聞く機会を設けても良いと思います。
	② 対象を明確にした情報提供を行います	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	情報を届けたい人を想定した広報手段を検討します	検討した広報手段による広報を実施します	・市民社協では若年層に向け、ホームページやSNSによる情報発信を強化した。利用者目線でのページ構成とスマホ対応を行うため、令和4年度にページのリニューアルを実施した。 ・市民社協のSNS (Facebook・Twitter) による情報発信は、更新の頻度を更に増やし、ホームページと連動させている。 ・地域社協は11地域がTwitterを開設した。 ・地域社協は、紙媒体や掲示板などの従来の広報活動は維持し、インターネット媒体と紙媒体の両方に取り組んでいる地域が多い。 ・市民社協では、令和3年度に居場所づくりの立ち上げ支援の内容等について5年間のあゆみをまとめた「居場所のチカラ」を作成し、関係機関や住民等に配布した。 【基本目標2(5)①再掲】	4	【評価理由】 ・市民社協ではこれまで以上にホームページやSNSでの情報発信を強化する体制づくりが進んでいるため。 ・地域社協では広報のターゲットを定めて媒体ごとに工夫するところには至っていないが、ほとんどの地域でTwitterを開設することができたため。	○ ホームページのリニューアルによって、どのような変化があったのか、SNSのフォロワー数や閲覧数を確認するなど数値やデータに目を向けても良いと思います。 ○ SNSをあまり使わない年代層や不得意な方もいるので、使い方を教えてくれる若い世代の方等と関わりが持てると、世代間の交流もさらに増えると思います。【(3)①再掲】
	③ WEB媒体による情報提供を行います	ボランティア団体 市民社協 など	より多くの地域団体やボランティア団体においてWEB媒体での情報発信が行われるよう検討・働きかけを行います	WEB媒体での情報発信は常に最新のものとなるよう更新します	・市民社協ではホームページの情報をできるだけ最新のものとできるように、更新頻度を随時更新に変更している。 ・市民社協のSNS (Facebook・Twitter) による情報発信は、更新の頻度を更に増やし、ホームページと連動させている。((1) ②の再掲) ・地域社協は、11地域がTwitterを開設したが、数か月間更新していない地域から2～3日に1回更新している地域など、更新頻度に差がある。	3	【評価理由】 ・市民社協では、ホームページとSNSで随時情報発信する体制に移行できた。 ・地域社協のTwitterは、イベントや活動があった時のみ更新する地域が多いため。 【課題事項】 ・地域社協については、大きなイベント等がなくても日常を投稿することについて、代表者連絡会や地域社協の研修等を通じて検討していく必要がある。	○ ステップ1から意識して進められており、ホームページやSNSによる情報発信は更新頻度を上げる努力が見受けられます。 ○ 地域社協では、Twitterによる発信が得意な人が所属しているかどうかによって更新の頻度に差が見られます。まずは、研修を通じて、Twitterを見ることができる人を増やしたり、操作に慣れるところから徐々に始めてみるのも良いと思います。
(2) より多くの人が地域の福祉に関心を持つ機会を増やす	① 地域活動やボランティア活動に対する理解を広め、様々な形で地域に出会うきっかけをつくりましょう	地域社協 ボランティア団体 など	地域団体やボランティア団体の現在の活動を誰が見てもわかりやすいものになっているか振り返り、可視化します	初めて活動に参加した人などに「可視化」した活動についての意見を募ります	・市民社協では、令和3年度の地域社協運営委員研修においてグラフィックレコーディングを取り入れ、自分たちの活動や意見を文字やイラストで可視化することの意義を学んだ。令和4年度の地域社協運営委員研修は、自分の団体のPR方法について検討する予定。	2	【評価理由】 ・地域社協については、新しく入ったメンバーに個々に意見を聞いている地域もあるが、ほとんどが取り組めていないため。 【課題事項】 ・地域社協については、これまで活動に係わって来なかった人からの意見を聞きながら取り組めるようにしていく必要がある。	○ 初めて活動に参加した人がいなければ、参加年数の浅い人を含め、多くの方にアンケート方式で意見を聞くことも有効だと思います。 ○ グラフィックレコーディングは、絵で伝える良さに加えて手書きの良さもあると思います。綺麗に作り上げることも大切ですが、手書きで想いを伝えることも切り口になると思います。 ○ グラフィックレコーディングを活動内容を分かりやすく説明するために、周知チラシ等に活用できると良いと思います。

基本目標 1 地域をささえる人づくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ 1	ステップ 2	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価 (4・3・2・1)	評価理由、課題事項	推進委員会からの応援メッセージ (目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等)
(2) より多くの方が地域の福祉に関心を持つ機会を増やす	② 子どもが地域福祉に出会う機会を増やしましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	地域団体やボランティア団体の行うイベント(事業)および小中学校における福祉学習事業やこころのバリアフリー啓発事業など学校で福祉を学ぶ機会を継続します	地域団体やボランティア団体、市民社協の行う事業の中で、子どもやその保護者などをはじめ、地域住民誰もが担い手として関わるができる役割をつくります	・市民社協の福祉学習事業では、コロナ禍でオンラインによる学習プログラムが中心となっているため、地域の方々の参加協力を得たうえで実施ができな状況が続いている。オンラインで実施した学校の児童または生徒からの感想として「これからは町で高齢者を見かけた時に声をかけるようにしたい」などの感想が多かった。(オンラインによる実施校：令和3年度小学校3校、中学校1校 延べ受講者数482名/令和4年度小学校3校、中学校1校 延べ受講者数367名) ・市民社協では、武蔵野市からの受託事業「心のバリアフリー啓発事業」を実施している。小中学校を中心に障がい者理解についての出前講座をオンラインも活用しながら実施している。また小学2～6年生を対象とした「夏休み子ども手話教室」を実施している。 ・ボランティアセンターの「ボランティアキャンペーン」では、夏休みや春休みの期間でボランティア体験や福祉に関する学習ができるプログラムを実施している。 ・地域社協等のボランティア団体が主催するイベント等については、子どもや保護者に対して、何かの役割を主体的に任せよう参加の仕方を意図的につけているところは少ない。	2	【評価理由】 ・市民社協では、福祉学習事業は実施しているが、それ以外の事業において子ども(親子)が担い手として意識し、関わられるようなプログラムを実施できていないため。 ・地域社協等の地域の自主的な活動において、役割をつくることを意識した活動はほとんど行われていないため。 【課題事項】 ・子どもが主体的に役割を担うような取り組みを、誰がどのように実施していくか具体的に検討する必要がある。	○ 「福祉学習」や「ボランティアキャンペーン」など子どもたちに対する事業により、子どもたちが「一緒に生活をしている地域住民として自分たちができること」を意識できるような取り組みを進めて欲しいと思います。
(3) 地域活動の担い手を増やす	① 「若い人」の参加を望む地域団体・ボランティア団体は、若い人の活動への定着を目指しましょう	地域社協 ボランティア団体 など	「若い人」の定義(年齢・年代・属性など)を明確にします	「若い人」が何に関心を持っているのかを知る機会として、出合いの場を設けます	・地域社協の活動では、様々な年代の人も参加できるような企画として、ラジオ体操や小中学校との連携、イベントを企画した地域もある。実際には、日頃は高齢者の参加が多かったが、夏休みには多数の小中学生が参加している地域もある。	2	【評価理由】 ・地域社協等のボランティア団体では、それぞれ工夫して取り組み始めたところもあるが、十分ではないため。 【課題事項】 ・ボランティア団体が工夫して取り組めるように、若い人と出会う場を設ける支援を市民社協としても行っていく必要がある。	○ SNSをあまり使わない年代層や不得意な方もいるので、簡単な作業を教えてくれる若い世代と関わりが持てるさらさらに盛り上がると思います。【(1)②再掲】
	② 働いている人が参加しやすい活動方法を目指しましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	SNS等でも活動に関する情報を取得しやすくなります	ボランティア休暇やノー残業デーなど働く人たちが空き時間を活用してできる地域活動を検討します	・地域社協では、独自のリーフレットを作成し、その中のメンバー募集の欄で働いている活動がある旨を記載した地域もある。 ・地域社協の中には、役員会の曜日働いている人でも参加しやすいように土曜日に変更した地域がある。 ・市民社協が主催する会議では、地域社協代表者連絡会やVCM各種委員会で、対面とオンラインのハイブリット開催を導入した。 ・地域社協代表者連絡会は、7月と9月は夜の開催にし、働いている人でも参加しやすいように変更した。(令和4年度～) ・ボランティアセンターでは令和4年度から次世代の担い手づくりを目的とした「次世代育成プロジェクト」の立ち上げを行う。	3	【評価理由】 ・地域社協等のボランティア団体では、工夫できるところでは実行し始めているが全てではなく、働きながらも活動できる旨を意識してPRしているところは少ないため。 ・ボランティアセンターの「次世代育成プロジェクト」も立ち上げの段階であり、成果等はこれからとなるため。 【課題事項】 ・現状活動している人が参加しやすい方法ではなく、参加していない人が参加しやすい方法について検討するような働きかけが必要である。	○ 働き方改革により様々な働き方の人が増えてきていると思います。会議や活動の日程や時間を調整し、働いている人でも参加しやすいように工夫していることは、大変素晴らしいことだと思います。今後も斬新的な発想で取り組んでください。 ○ いかなる団体においても、若い世代の取り込みや人材の確保は喫緊の課題だと思います。活動の曜日・時間のほかに、「参加しやすさ」を阻害している要因は何かを、整理していくことが今後、必要になると思います。

基本目標1 地域をささえる人づくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	ステップ2	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価(4・3・2・1)	評価理由、課題事項	推進委員会からの応援メッセージ(目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等)
(3) 地域活動の担い手を増やす	③ 担い手を増やすために、これまでの活動内容や活動方法を見直しましょう	地域社協 ボランティア団体 など	参加してほしい対象者に関する共通認識をもちます	自分たちの実施している活動で参加しやすい活動や役割を切り出します	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社協では、独自のリーフレットを作成し、その中のメンバー募集の欄で短時間でもできる活動がある旨を記載した地域もある。 ・地域社協では、令和3年度に転入者向けの取り組みを検討する際に、「すぐに役員に誘わない」「1回だけの手伝いも可」などを強調して誘うといいとの意見が出た。令和4年度には出た意見をもとに作成した「新しい仲間を見つけるためのステップアップシート」を地域社協役員や運営委員に配付し、新しく担い手になる方との関わり方について周知を行った。 ・地域社協では、周年事業を実施するにあたり、自分たちで全部をやるのではなく、あえて一部をPTAにお願いした地域もある。 	3	<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社協については、「担い手」＝「役員」ではなく、最初は活動の一部分からスタートすることを意識した広報活動を全ての地域が行っている訳ではないため。 <p>【課題事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員不足が深刻なボランティア団体では、新しく参加する人を見つける際に、自分が担ってきたことの全てを急をお願いするような誘い方をすることが多い。よりよい参加方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 若い世代に関わってもらうためには、「ある程度業務をお任せすること」が必要だと思います。例えば、SNS・インターネットに関することについて、一定程度の役割を担ってもらうことが重要だと思います。一方で、一部のメンバーが苦手であるようなことを、任せきりにしてしまうのではなく、団体全体として、知識を共有し、得意・不得意の役割分担をしながらレベルアップを図れる仕組みがある良いと思います。 ○ 活動をすすめていく中で、思うように人が集まらない時があります。そのことに対してめげることなく、同じ思いを持った仲間と繋がりが続けることが地域福祉活動の原動力になると思います。
	④ 新しいグループ・団体を立ち上げ、活動者を増やしましょう	ボランティア団体 市民社協 など	地域課題やその解決方法など、様々なテーマへの取り組みを学ぶ場や機会を設けます	学んだことを実践するためのグループ・団体を立ち上げます	<ul style="list-style-type: none"> ・市民社協で開催している子ども・コミュニティ食堂及び子どもの学習・生活支援ネットワーク連絡会については、既に立ち上がっている団体だけでなく、これから始めようと考えている個人や団体も参加でき、グループワーク等を通じて、お互いの活動の悩みや情報交換ができるような場として実施している。 	3	<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民社協では、武蔵野地域活動はじめてセミナーや地域福祉ファシリテーター養成講座、VCMによる各種講座等の既存の市民社協の事業内で工夫できることはしているが、十分ではないため。 <p>【課題事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民社協の既存の事業内では、参加者の参加目的が人によって異なることが多く、その後のグループ立ち上げに展開できることを意図した事業ばかりではない。実際に活動することを目的とした団体立ち上げのための事業を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域課題や新しいテーマ、方針がメンバー間で共有できれば、まず団体やグループを立ち上げて、行動してみることも大事だと思います。

基本目標2 人がつながる地域づくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	ステップ2	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価(4・3・2・1)	評価理由、課題事項	推進委員会からの応援メッセージ(目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等)
(4)「顔の見える関係」をつくる	① 住民同士が出会い、顔見知りになれる機会を増やしましょう	地域社協 コミュニティ協議会 ボランティア団体 市民社協 など	「防災」や「防犯」のような誰もが関心を持つテーマ」での取り組みについて検討し、住民への参加呼びかけを行います	各地域で「誰もが関心を持つテーマ」での取り組みについて検討し、住民への参加呼びかけを行います	・地域社協では、「丁目活動」「ご近所のつどい」のような範囲の狭いエリアを対象とした活動や、防災・防犯のような世代を問わず関心を持ちそうなテーマについて、各地域で工夫して実施している。 ・地域社協では、「おすすめの本」等を紹介する場や福祉まつりなどの楽しみながら参加できる活動を企画している地域もある。 ・市民社協では、子ども・コミュニティ食堂や子どもの学習・生活支援、フードバンク(食糧支援関連)に関する問合せが増えている。相談内容によって地域社協や地域活動をしているキーパーソンについている。	3	【評価理由】 ・地域社協では、住民が参加するイベント等はコロナ禍により中止している地域が多く、十分に取組んでいないため。 【課題事項】 ・各団体が、コロナ禍でも活動できる内容を工夫していくことが必要である。	○ コロナ禍でも感染対策を講じながら、粘り強く活動内容を工夫し、顔見知りになれる機会を増やして、参加を呼び掛けていきましょう。 ○ 新たな活動として、「子ども・コミュニティ食堂」や「学習支援」など、親子共々関わっていることは、とても良いことだと思います。
	② 転入者に対する地域活動の情報提供のしくみをつくりましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	市内の地域活動をわかりやすく紹介する広報物などの作成を行います	配付窓口や配布方法等の検討を行い、情報提供を始めます	・地域社協では、令和4年度の地域社協運営委員研修等を踏まえて、広報紙、リーフレットの内容、レイアウト等を工夫する予定。 ・市民社協では、既存の地域社協全体の紹介リーフレットを改訂する予定であるが、ボランティア団体と他の地域活動の紹介を含めた広報物の発行には至っていない。	3	【評価理由】 ・地域社協では、配布方法を工夫することを意識して取り組んでいるところは少ないため。 【課題事項】 ・地域社協では、出来上がった広報紙等を転入者へ配布する方法を検討する必要がある。	○ 市内転入者などに対して、市や社協職員、地域社協の方が戸別訪問し、資料を渡すことによって、地域福祉に興味を持ってもらえるような新しい仕組みづくりも有効だと思います。
	③ 集合住宅におけるコミュニケーションの場を増やしましょう	地域社協 集合住宅管理組合 市民社協 など	集合住宅の住民組織との関係づくりを進めます	集合住宅に住んでいる住民同士が交流できる場づくりを進めます	・地域団体によっては、集合住宅居住者のみを対象とした「ご近所のつどい」や「マンション交流会」「居場所づくり」を開催しているところもある。	3	【評価理由】 ・全市的にどの集合住宅でも行っている訳ではなく、十分ではないため。 【課題事項】 ・集合住宅が多い本市においては、他の取り組みを紹介していくなど、意識的に働きかけを行う方法を検討する必要がある。	○ 集合住宅の管理組合が総会や打合せなどを、コミセンを会場に使用して行うことがあります。そこに社協職員や地域社協の方が出向き、地域活動の説明の時間をもらうこと等によって、マンションの住人とのつながりを持てると良いと思います。 ○ 市内転入者などに対して、市や社協職員が戸別訪問したり、資料を渡すことによって、地域福祉に興味を持ってもらえるような新しい仕組みづくりも有効だと思います。
(5)人と人がつながる「場」をつくる	① 居場所の数を増やしていきます	市民社協 など	居場所づくりを始めたい人の相談に乗ります	居場所づくりをしたい人と場を提供したい人同士をつなげます	・市民社協では、令和2年度以降、「居場所づくり学習会(交流会)」をコロナ禍により中止にしている。 ・市民社協では、令和3年度に居場所づくりの立ち上げ支援の内容等について5年間のあゆみをまとめた「居場所のチカラ」を作成し、関係機関や住民等に配布した。【基本目標1(1)②再掲】	2	【評価理由】 ・市民社協では、個々に相談があった場合は、対応しているが、その他のアプローチ等は積極的に取り組んでいないため。 【課題事項】 ・新型コロナウイルスの影響も踏まえた取り組みを検討していく必要がある。	○ 「居場所のチカラ」のパンフレットをうまく活用し、居場所づくりをしたい人を発掘し、メンバーの輪を少しでも広げていくことに力を入れることが大事だと思います。
	② 居場所を運営する担い手を増やしていきます	市民社協 など	居場所の活動を周知します	居場所づくり学習会・交流会を実施します	(5)①と同じ	1	【評価理由】 ・新型コロナウイルスの影響により、開催しなかったため。 【課題事項】 ・新型コロナウイルスの影響も踏まえた取り組みを検討していく必要がある。	○ 新型コロナウイルス感染症の影響もふまえ、今後は対面とオンラインの併用等により、様々な方が参加できるように配慮することも有効です。 ○ 居場所を求める形は、人によって様々です。居場所がうまく機能していないと感じる時は、少し考え方を変えることで、次の一手が見つかるかもしれません。

基本目標2 人がつながる地域づくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	ステップ2	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価(4・3・2・1)	評価理由、課題事項	推進委員会からの応援メッセージ(目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等)
(5) 人と人がつながる「場」をつくる	③ 同じ課題や関心ごとをもつ人同士がつながる「場」をつくりましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	現在の活動を多くの人に知らせ、参加を希望する方に紹介します	新たな「場」の立ち上げにあたり、活動をサポートするボランティアの養成や活動に必要な情報の提供など支援のしくみづくりを進めます	・市民社協では、障がい者団体助成や子育て支援助成等のPRの際に具体的な活動例をチラシやホームページに記載している。それにより子育ての同じ悩みを持つ人の会や当事者団体からの相談があった。 ・市民社協では、子ども・コミュニティ食堂及び子どもの学習・生活支援、フードバンク（食糧支援関連）の活動を始めたいという市民や連携したい企業からの相談に対応した。（令和3年度相談件数：38件）	3	【評価理由】 ・必要な情報の提供はできたが、ボランティア養成には至っていないため。 【課題事項】 ・現状の支援で不足していることや必要なことについて、具体的に検討する必要がある。	○ 同じ興味や関心を持つ人たちが集まりやすい環境を整え、個人または団体同士が繋がる仕組みづくりをすすめる必要があります。
(6) 人や団体同士をつなげる	① 個人・団体同士の横のつながりをつくりましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	個人や団体同士の交流の場を検討します	交流の場で、団体同士が連携したり、個人が新たな活動に参加する機会をつくります	・市民社協の居場所づくり学習会（交流会）は、令和2年度以降コロナ禍により中止している。 ・ボランティアセンターのボラカフェは、コロナ禍により令和3年度はオンライン実施となり、団体同士が連携できるような機会をつくることができなかった。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、対面とオンラインを併用し、実施することができた。	2	【評価理由】 ・コロナ禍において、個人からの活動の相談については個別に対応を行い、きっかけづくりを継続することはできたが、団体同士がコミュニケーションを取り、連携できるような機会をつくることができていないため。 【課題事項】 ・各団体が、コロナ禍でも活動できる内容を工夫していく必要がある。 ・既存の団体がオンラインスキルを習得することにより、対面だけでない交流・連携ができる機会を増やしていくことも必要である。	○ オンラインスキルを習得する講座を継続していくことで、若い世代に教わる機会が増え、交流が生まれている点も良いと思います。対面とオンラインの長所と短所を見極め、使い分けることも大切です。 ○ オンラインが使えない方も含めて、今後、コロナ禍においてどのような繋がり方があるのか考える機会も必要です。
	② 地域・関係機関同士の連携を強めましょう	地域社協 ボランティア団体 相談支援ネットワーク の関係機関 市民社協 など	関係機関との情報共有の場を検討します	関係機関同士で連携できること、地域が協力できることなどを検討します	・市民社協の地域担当と在宅介護・地域包括支援センターの生活支援コーディネーターとは、日頃からの情報交換・共有に加え、年2回情報交換会を行っている。 ・市民社協では、子ども・コミュニティ食堂及び子どもの学習・生活支援については、ネットワーク連絡会にて、スクールソーシャルワーカーの役割を共有した。グループワークを実施した際には、団体や専門機関ができることは何かについて議論した。 ・市民社協では、地域福祉コーディネーターの検討にあたり、令和4年度に関係機関へのヒアリング調査を行った。 ・市民社協では、生活福祉課やハローワーク等の担当者が集まる支援調整会議に出席し、低所得世帯に関する情報共有を行っている。 ・ボランティアセンターでは、施設ボランティアコーディネーターを対象とした研修・懇談会をオンラインで開催し、コロナ禍でのボランティア受け入れに関する情報共有を行った。	3	【評価理由】 ・すでに市民社協との協議の場がある関係機関もあるが、そのような場がこれまでなかった関係機関とは、新たに場を設定する必要があるが、そのような働きかけはしてこなかったため。 ・ボランティアコーディネーター同士の連携強化までには至っていないため。 【課題事項】 ・市民社協では、令和4年度の関係機関へのヒアリングを踏まえ、今後の連携体制について検討する必要がある。 ・ボランティアセンターでは、より多くのボランティアコーディネーターに参加してもらえるような呼びかけ・プログラム内容を検討していく必要がある。	○ 8050問題やヤングケアラー問題に象徴される複合的な課題への対応には、地域・関係機関同士の連携が必要です。相談を受けた機関が、市や様々な関係機関と連携して必要な情報を共有し、支援ができる体制づくりを今後も推進してほしいと思います。

基本目標3 たすけあいのしくみづくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	ステップ2	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価(4・3・2・1)	評価理由、課題事項	推進委員会からの応援メッセージ(目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等)
(7) 地域での孤立を防ぐ	① 住民一人ひとりが周囲の人の異変に気づき、見守りの意識をもちましよう	市民地域社協ボランティア団体など	支援が必要な人(認知症高齢者、子育て世帯、障害者など)に気づくポイントや専門機関についての情報を学びます	周りに困っている人がいないか、関心を向けます	・市民社協の福祉学習事業では、コロナ禍でオンラインによる学習プログラムが中心となっているため、地域の方々の参加協力を得たうえでの実施ができない状況が続いている。オンラインで実施した学校の生徒からの感想として「これからは町で高齢者を見かけた時に声をかけるようにしたい」などの感想があった。(オンラインによる実施校：令和3年度4校、482名/令和4年度2校、117名予定)(2)②の再掲 ・地域社協の広報紙に高齢者の異変や相談事例等を説明した在宅介護・地域包括支援センターの記事を掲載した。	2	【評価理由】 ・市民社協では、福祉学習事業以外については、取り組みなかったため。 【課題事項】 ・相談窓口となる関係機関を中心に住民が異変を発見するポイント等を分かりやすく掲載した資料を作成するなどの啓発を進める必要がある。	○ 地域において日常的に周囲の異変を把握する機会のある民生委員や赤十字奉仕団、地域社協等の方々と連携し、総合的な支援のため、些細な情報でも共有できる仕組みが必要です。市民社協が福祉総合相談窓口や地域包括支援センター、子ども家庭支援センターなどと連携し、具体的な事例を共有、周知をする等の取り組みも有効です。 ○ 事業所や団体同士の連携のため、まずはお互いが何をやっているのか知ることも重要です。定期的に情報交換をする等、できることから始めてみるのも良いかもしれません。
	② 地域とのつながりがなく、何らかの支援が必要となった時に助けを求めることが難しいと思われる人についての情報を地域内で共有します	地域社協など	地域内でのつながりがなく、何らかの支援が必要となった時に助けを求めることが難しいと思われる人についての情報を地域内で共有します	地域の活動への参加を呼びかける等、地域内でのつながりづくりを進めます	・ボランティアセンターでは、地域でのつながりが必要と判断したケースは地域社協の協力の可能性を検討している。 ・身近な地域の居場所づくりは、事業計画書にて様々な人が参加できるように、広報への取り組みを記載する欄を設け、メンバーが新しい人への声掛けを意識できるようにした。 ・市民社協では、令和4年度に関係機関へのヒアリング調査を行い、孤立しがちな市民が地域社協の活動や身近な地域の居場所づくり等に参加できるような連携をしていきたい旨を伝えた。	2	【評価理由】 ・市民社協のそれぞれの事業等で取り組みを進めているが、十分ではなく、より広げていく必要があるため。 ・ボランティアセンターの相談ケースの対応に関して、地域との見守りの協力体制づくりは十分ではないため。 【課題事項】 ・個別の相談に対応する相談機関と市民社協の連携だけでなく、地域住民同士がつながるための場(機会)を検討していく必要がある。	○ コロナ禍でかなり活動が制限されているかと思いますが、シニアへええ合いポイント事業など既存の事業をきっかけにして、地域福祉活動へ興味を持った方同士が、交流をもてるような事例が増えると良いですね。
(8) 地域の福祉活動・ボランティア活動を支える	① 市民社協の組織体制を強化します	市民社協など	市民社協の事業の精査を行い、今後取り組むべき事業・活動、求められる拠点機能について検討します	事業の見直しを行うとともに、事業・活動内容に合わせた職員配置をめざします	・市民社協では、地域福祉コーディネーターの検討をするために令和3年度からワーキングを発足した。ワーキングでの結果を踏まえ、今までは特に決めていなかった個人の支援を担当する職員を令和4年度から配置した。	3	【評価理由】 ・市民社協では、関係機関を交えた地域福祉コーディネーター立ち上げ検討委員会を発足し、今後の地域福祉コーディネーターの役割や他機関の連携について協議した。 【課題事項】 ・市民社協で取り組むにあたっての組織の体制を検討していく必要がある。	
	② 地域活動・ボランティア活動の拠点について検討します	市民社協など	地域社協やボランティア団体等の活動拠点の必要性について、現状の確認と検討を行います	コミセン等既存の施設の活用について、関係機関と協議を行い、拠点として活用できるように働きかけていきます	・市民社協では、市との次期地域福祉計画策定に向けての話し合いの場において、拠点の課題について説明した。	1	【評価理由】 ・具体的な協議に向けての働きかけまでには至らなかったため。 【課題事項】 ・市民社協では、活動拠点の必要性について市と継続して協議を進めていく必要がある。	

基本目標3 たすけあいのしくみづくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	ステップ2	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価(4・3・2・1)	評価理由、課題事項	推進委員会からの応援メッセージ(目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等)
(8) 地域の福祉活動・ボランティア活動を支える	③ 安定した活動支援ができるよう、財源づくりをすすめます	市民社協など	市民社協会員増強計画(仮称)について検討し、会員増強に向けた取り組みをまとめます	市民社協会員増強計画(仮称)の効果を検証するとともに、寄付付き商品の開発など新たな財源づくりについて検討します	<ul style="list-style-type: none"> 市民社協では、①「会員拡大」②「自主財源」③「プロモーション(広報)」等をテーマとする職員ワーキングチームを継続して設置し、以下について検討、実施した。 ➡①「ゆうちょ銀行口座の新規開設」(会費納入の利便性向上のため)、②「愛の大箱(募金箱)のデザイン公募及び製作」(寄付の周知及び拡大のため)、③「市民社協リーフレットのリニューアルや、職員統一デザインの名刺作成」(市民社協PRの推進のため) 市民社協では、令和4年度も継続して会員特典(協賛企業への会員優待サービス等)を実施したほか、新たな店舗等への募金箱の設置、会員加入等の呼びかけを行った。 市民社協では、新型コロナウイルスの感染対策をとったうえで、チャリティゴルフ大会(収益を目的とするイベント)や春のお得市(バザー)を開催した。 	3	<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民社協では、職員ワーキングチームを設置し、各種課題について具体的な検討及び対策を行ったが、現在も取り組んでいる途中のため。 <p>【課題事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワーキングによる検討は、会員数やその時の社会情勢などを考慮したうえで、今後もすすめていく予定である。 	

6 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会委員名簿

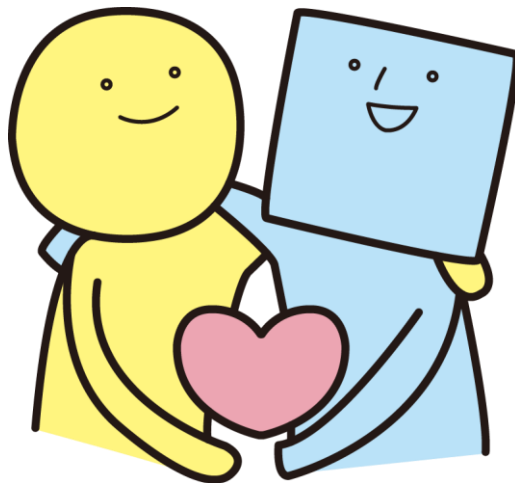
(任期：令和3年2月25日～令和7年3月31日まで)

◎＝委員長、○副委員長（50音順・敬称略）

	氏名	所属団体等	役職
1	宇田川 みち子	武蔵野市赤十字奉仕団	委員長
2	大屋 朋代	吉西福祉の会 (吉祥寺西地域福祉活動推進協議会)	会計監査
3	矢島 和美※1	武蔵野市民生児童委員協議会	代表会長
	川鍋 和代※2		
4	◎ 熊田 博喜	武蔵野大学 人間科学部社会福祉学科	教授
5	田中 邦忠	ボランティアセンター武蔵野運営委員会	運営委員
6	○ 千種 豊	武蔵野市民社会福祉協議会	会長
7	深田 榮一	吉祥寺西コミュニティ協議会	委員長
8	小久保 渉※1	武蔵野市 健康福祉部地域支援課	課長
	福山 和彦※2		

※1…任期：令和3年2月25日から令和4年9月1日まで

※2…任期：令和4年9月2日より



第4次武蔵野市民地域福祉活動計画
ステップ2振り返り報告書

～ 応援メッセージ ～

<令和3年度～令和4年度分>

令和5年3月発行

発行：第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会

事務局：社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会

武蔵野市吉祥寺北町一丁目9番1号

(TEL) 0422-23-0701

(FAX) 0422-23-1180

Eメール：shimin@shakyou.or.jp